

**Scale for the assessment and rating of ataxia (SARA)**

<p><b>1) 歩行</b>                      以下の2種類で判断する。壁から安全な距離をとって壁と平行に歩き、方向転換し、帰りは介助なしでつぎ足歩行(つま先に踵を継いで歩く)を行う。</p> <p>0: 正常。歩行、方向転換、つぎ足歩行が困難なく10歩より多くできる。(1回までの足の踏み外しは可)</p> <p>1: やや困難。つぎ足歩行は10歩より多くできるが、正常歩行ではない。</p> <p>2: 明らかに異常。つぎ足歩行はできるが10歩を超えることができない。</p> <p>3: 普通の歩行で無視できないふらつきがある。方向転換がしにくい、支えは要らない。</p> <p>4: 著しいふらつきがある。時々壁を伝う。</p> <p>5: 激しいふらつきがある。常に、1本杖か、片方の腕に軽い介助が必要。</p> <p>6: しっかりとした介助があれば10mより長く歩ける。2本杖か歩行器か介助者が必要。</p> <p>7: しっかりとした介助があっても10mには届かない。2本杖か歩行器か介助が必要。</p> <p>8: 介助があっても歩けない。</p>	<p><b>2) 立位</b>                      被検者に靴を脱いでいただき、開眼で、順に自然な姿勢、足を揃えて(親趾同士をつける)、つぎ足(両足を一直線に、踵とつま先に間を空けないようにする)で立っていただく。各肢位で3回まで再施行可能、最高点を記載する。</p> <p>0: 正常。つぎ足で10秒より長く立てる。</p> <p>1: 足を揃えて、動揺せずに立てるが、つぎ足で10秒より長く立てない。</p> <p>2: 足を揃えて、10秒より長く立てるが動揺する。</p> <p>3: 足を揃えて立つことはできないが、介助なしに、自然な肢位で10秒より長く立てる。</p> <p>4: 軽い介助(間欠的)があれば、自然な肢位で10秒より長く立てる。</p> <p>5: 常に片方の腕を支えれば、自然な肢位で10秒より長く立てる。</p> <p>6: 常に片方の腕を支えても、10秒より長く立つことができない。</p>
<p><b>Score</b></p>	<p><b>Score</b></p>
<p><b>3) 坐位</b>                      開眼し、両上肢を前方に伸ばした姿勢で、足を浮かせてベッドに座る。</p> <p>0: 正常。困難なく10秒より長く坐っていることが出来る。</p> <p>1: 軽度困難、間欠的に動揺する。</p> <p>2: 常に動揺しているが、介助無しに10秒より長く坐っていられる。</p> <p>3: 時々介助するだけで10秒より長く坐っていられる。</p> <p>4: ずっと支えなければ10秒より長く坐っていることが出来ない。</p>	<p><b>4) 言語障害</b>                      通常の会話で評価する。</p> <p>0: 正常。</p> <p>1: わずかな言語障害が疑われる。</p> <p>2: 言語障害があるが、容易に理解できる。</p> <p>3: 時々、理解困難な言葉がある。</p> <p>4: 多くの言葉が理解困難である。</p> <p>5: かるうじて単語が理解できる。</p> <p>6: 単語を理解できない。言葉が出ない。</p>
<p><b>Score</b></p>	<p><b>Score</b></p>

<p><b>5) 指追い試験</b>                      被検者は楽な姿勢で座ってもらい、必要があれば足や体幹を支えてよい。検者は被検者の前に座る。検者は、被検者の指が届く距離の中間の位置に、自分の人差し指を示す。被検者に、自分の人差し指で、検者の人差し指の動きに、できるだけ早く正確についていくように命ずる。検者は被検者の予測できない方向に、2秒かけて、約30cm、人差し指を動かす。これを5回繰り返す。被検者の人差し指が、正確に検者の人差し指を示すかを判定する。5回のうち最後の3回の平均を評価する。</p> <p>0: 測定障害なし。                      1: 測定障害がある。5cm未満。                      2: 測定障害がある。15cm未満。                      3: 測定障害がある。15cmより大きい。                      4: 5回行えない。</p> <p>(注)原疾患以外の理由により検査自体ができない場合は5とし、平均値、総得点に反映させない。</p>			<p><b>6) 鼻 指試験</b>                      被検者は楽な姿勢で座ってもらい、必要があれば足や体幹を支えてよい。検者はその前に座る。検者は、被検者の指が届く距離の90%の位置に、自分の人差し指を示す。被検者に、人差し指で被検者の鼻と検者の指を普通のスピードで繰り返し往復するように命じる。運動時の指先の振戦の振幅の平均を評価する。</p> <p>0: 振戦なし。                      1: 振戦がある。振幅は2cm未満。                      2: 振戦がある。振幅は5cm未満。                      3: 振戦がある。振幅は5cmより大きい。                      4: 5回行えない。</p> <p>(注)原疾患以外の理由により検査自体ができない場合は5とし、平均値、総得点に反映させない。</p>		
<b>Score</b>	<b>Right</b>	<b>Left</b>	<b>Score</b>	<b>Right</b>	<b>Left</b>
平均 (R+L)/2			平均 (R+L)/2		
<p><b>7) 手の回内・回外運動</b>                      被検者は楽な姿勢で座ってもらい、必要があれば足や体幹を支えてよい。被検者に、被検者の大腿部の上で、手の回内・回外運動を、できるだけ速く正確に10回繰り返すよう命ずる。検者は同じ事を7秒で行ない手本とする。運動に要した正確な時間を測定する。</p> <p>0: 正常。規則正しく行なえる。10秒未満でできる。                      1: わずかに不規則。10秒未満でできる。                      2: 明らかに不規則。1回の回内・回外運動が区別できない、もしくは中断する。しかし10秒未満でできる。                      3: きわめて不規則。10秒より長くかかるが10回行える。                      4: 10回行えない。</p> <p>(注)原疾患以外の理由により検査自体ができない場合は5とし、平均値、総得点に反映させない。</p>			<p><b>8) 踵 すね試験</b>                      被検者をベッド上で横にして下肢が見えないようにする。被検者に、片方の足をあげ、踵を反対の膝に移動させ、1秒以内ですねに沿って踵まで滑らせるように命じる。その後、足を元の位置に戻す。片方ずつ3回連続で行なう。</p> <p>0: 正常。                      1: わずかに異常。踵はすねから離れない                      2: 明らかに異常。すねから離れる(3回まで)                      3: きわめて異常。すねから離れる(4回以上)                      4: 行えない。(3回ともすねにそってかかとをすべらすことができない)</p> <p>(注)原疾患以外の理由により検査自体ができない場合は5とし、平均値、総得点に反映させない。</p>		
<b>Score</b>	<b>Right</b>	<b>Left</b>	<b>Score</b>	<b>Right</b>	<b>Left</b>
平均 (R+L)/2			平均 (R+L) / 2		